

大阪市、学校医療券を改善

市内4地区との交渉で明らかに

協会の大阪市内4地区が合同で、3月25日に行なった大阪市との交渉で、2011年度から学校医療券の要保護者(要A)で削除されていた医学管理料が算定できるように改善されたことが明らかにされた。また、大阪市は



学校医療券で管理料が算定できなくなっている問題を追及する大阪市内地区役員ら

同年度から「要A」として保護者(要B)を統一することも協会に伝えた。交渉には小澤力、吉田裕志、岡副理事長、宮本辰雄、門奈文、石南地区責任者、宇治田竜一、東部地区責任者と事務局が参加した。

市の学校医療券は、これまで「要A」「要B」とも同じ様式で、治療にかかった点数と医療費を記載すればよかったが、昨年4月から「要A」のみレシート様式に変わり、「医学管理料」欄が削除されたうえ、「歯磨き指導等は対象外」と注意書きが追加された。協会は、昨年6月に社保研究部が、9月には市内4地区組織が、「新様式は子どもを医療現場で差別するものだ」として様式を元に戻すよう改善を求めていた。また、市議会でも寺戸月美議員(共産党)がこの問題を追及しており、この間の協会の要求と運動が実ったといえる。ただ、歯科衛生士地

り、歯科衛生士・歯科技工士の安定的雇用の大切さを力説した。経歴や立場の違う2人の先輩Drを囲んでの質疑があり、大変貴重な時間となった。(松原市・大土努)

指導については市は、予防であるという理由で依然として対象外としており、今後も改善を働きかけていくことが求められている。今回は学校医療券のほか、①東日本大震災の被災者の一部負担免除の要件について医療機関に周知すること②国民健康保険料の引き下げなどの改善③福祉医療費助成制度の拡充④口腔保険事業の拡充——などを要望した。

国保料の年内完納を強要しないようにという協会の要望に対しては、保険料の年内完納が原則で、10回のところを12回までの分納なら認めていると回答した。

この他、保険でよい歯科医療を求める意見書採択や学校医療券の対象疾患に歯肉炎を加える運動

区内 会員に身近な地区めぐす

要望多い講習会など企画

南河内地区は、総会を保険医会館で3月19日に開いた。活動報告と方針、決算、予算を提案通り承認し、地区役員・評議員を選出した。

市開業の吉岡正雄氏、元大阪府歯科医師会附属歯科衛生士専門学校校長で松原市開業の岩間總一郎氏。

吉岡氏は、初めに税や所得についてわかりやすく解説。歯科医院経営の特徴を①可処分所得をいかに確保するか②不況に強い業種と認識する③売上げ別に経費比率を検討する④の3点にあると述べた。歯科の将来を明るくするために、①増収②経費削減③節税④資産運用——の四つの面から具

わが街 わが地区



北河内地区は3月20日、OMビルで総会・記念講演を開き、活動のまとめと方針、決算と予算案を承認し、地区役員・評議員を選出した。地区責任者には南唯廣氏(枚方市)を再任し、評議員に寺西昭三氏(守口市)を新たに承認した。参加は46人。

冒頭に伊津理事長が挨拶で北河内地区からは学校保健法に関する意見書が2市から上がっている、このように協会の活動は地区組織があつてのものだと思ふ。これからは積極的な協力をお願いしたいと述べた。

活動報告では、積極的に講習会を開催したことや住民健診・健康教育に力を入れて活動した事を報告した。

後半は小西昭彦氏(東京都新宿区)が「オーラルフィジオセラピー」非観血的処置で歯周病を治すをテーマに講演した。小西氏は一般的歯周治療のプラークコントロールとオーラルフィジオセラピーである片山式フ

区内 方針や予算を承認

健診などの活動を報告

北河内地区は3月20日、OMビルで総会・記念講演を開き、活動のまとめと方針、決算と予算案を承認し、地区役員・評議員を選出した。地区責任者には南唯廣氏(枚方市)を再任し、評議員に寺西昭三氏(守口市)を新たに承認した。参加は46人。

冒頭に伊津理事長が挨拶で北河内地区からは学校保健法に関する意見書が2市から上がっている、このように協会の活動は地区組織があつてのものだと思ふ。これからは積極的な協力をお願いしたいと述べた。

後半は小西昭彦氏(東京都新宿区)が「オーラルフィジオセラピー」非観血的処置で歯周病を治すをテーマに講演した。小西氏は一般的歯周治療のプラークコントロールとオーラルフィジオセラピーである片山式フ

石・高 地区責任者に山上氏

医療助成の拡充など報告

石・高地区は3月26日に堺市内で総会を開き、山上紘志氏を新たな地区責任者に選出した。また、栗本拓哉氏(泉佐野市)を新評議員に選出した。

総会では、堺・泉州地域の子どもの医療費助成を拡充する取り組みが進み、この1年で堺市や田尻町(7月1日実施)で中学卒業までの引き上げを実現し、就学前以上の自治体が6市町から10市町に増えたことを報告した。

この他、保険でよい歯科医療を求める意見書採択や学校医療券の対象疾患に歯肉炎を加える運動

指導については市は、予防であるという理由で依然として対象外としており、今後も改善を働きかけていくことが求められている。今回は学校医療券のほか、①東日本大震災の被災者の一部負担免除の要件について医療機関に周知すること②国民健康保険料の引き下げなどの改善③福祉医療費助成制度の拡充④口腔保険事業の拡充——などを要望した。

国保料の年内完納を強要しないようにという協会の要望に対しては、保険料の年内完納が原則で、10回のところを12回までの分納なら認めていると回答した。

今日からできる訪問診療

「必要性高い」と小澤氏



A4判80ページ、頒価1500円(送料込)

協会は保団連が昨年末発行した『今日からできる歯科訪問診療の手引き』(A4判80頁)をテキストにした講習会を3月19日、M&Dホールで開いた。歯科医師ら61人が参加した。

講師の小澤力氏(副理事長)は、歯科訪問診療の必要性は高いが居宅への訪問は増えていないと述べ、文書提供や20分フル、複雑な(医療・介護)が参加した。

『今日からできる歯科訪問診療の手引き』(定価1500円、送料込)のご注文は、協会事務局(06-6568-1773)までお願いします。

ほのほのあまご釣り大会

21人全員釣れ満足



北大阪地区

北大阪地区は3月20日「ほのほのあまご釣り大会」を兵庫県三田市で開いた(写真)。釣りに子どもから大人まで6家族21人が集まった。参加者は、竿一本とエサのイクラを手に釣り場に出陣。静かに、楽しく競技が始まった。開始するや否や、「釣れたあゝの声があちこちから。主催者側は網を持って駆け回るために……。大物を釣り上げた人を表彰し、参加者全員釣ることができて満足だった。(豊中市・三木正弘)